

註:本発表資料は、アート・ドキュメンテーション学会2024秋季研究集会「図書館・博物館機能複合型文化施設における情報環境設計と共創型デジタルアーカイブ構築の試み」大橋正司, 大坪逸貴(サイフォン合同会社), 白井雅明(小千谷市)の資料を一部改変し、作成しております。

小千谷市にぎわい交流課 学芸員 白井 雅明

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点 ホントカ。

小千谷市立図書館のリニューアル

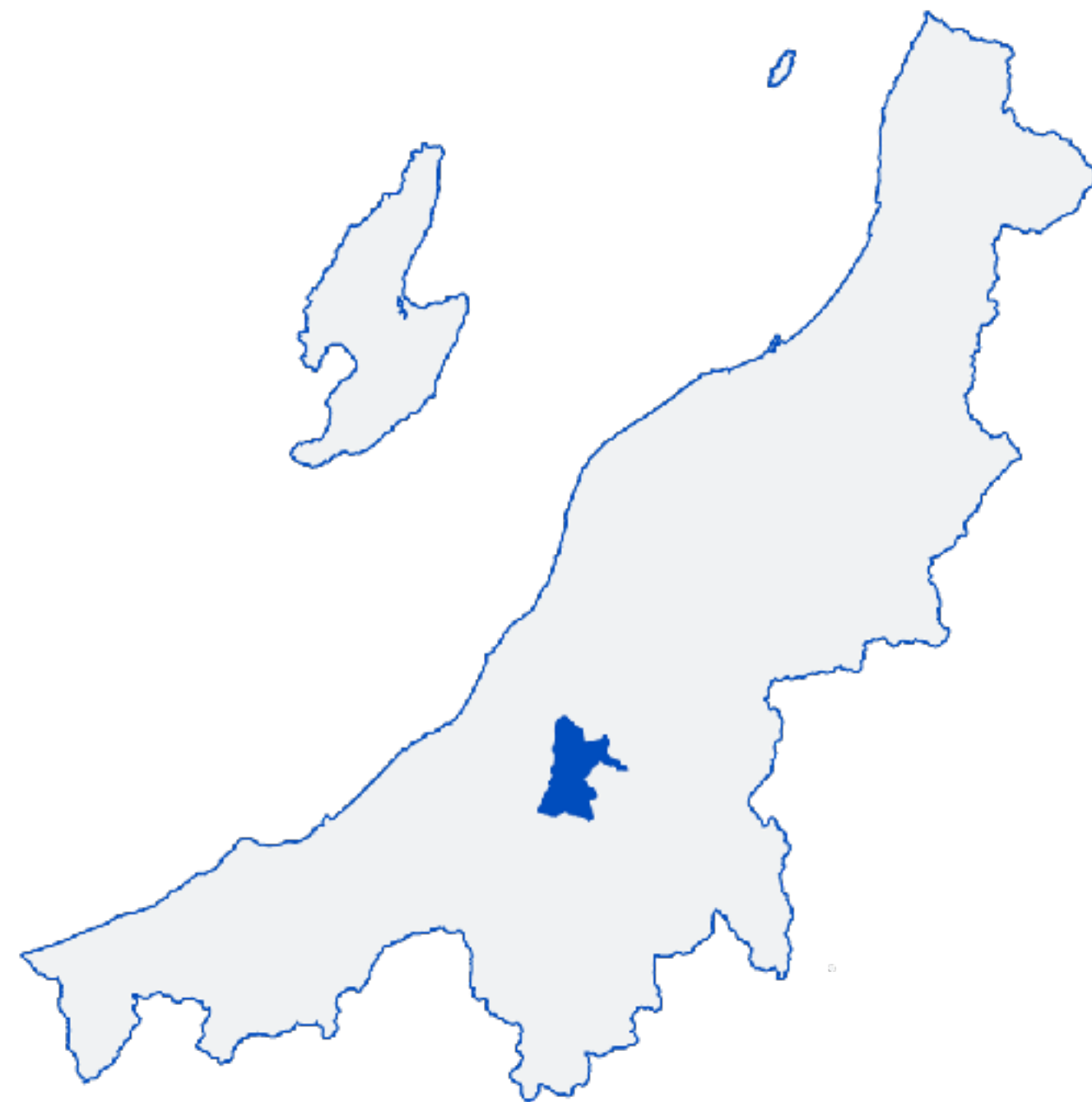
2024年9月28日開館

発表者は本計画において情報環境設計とシステム開発を行うJVの代表企業と、小千谷市にぎわい交流課の学芸員

画像：ホントカ。公式Webサイト

小千谷市について

人口：32,092人(2024年10月1日)



新潟県中越の魚沼地方に属する

交易のまち



信濃川の舟運による交易の拠点として栄えてきた

代表的な文化・産業



錦鯉の養殖



小千谷縮

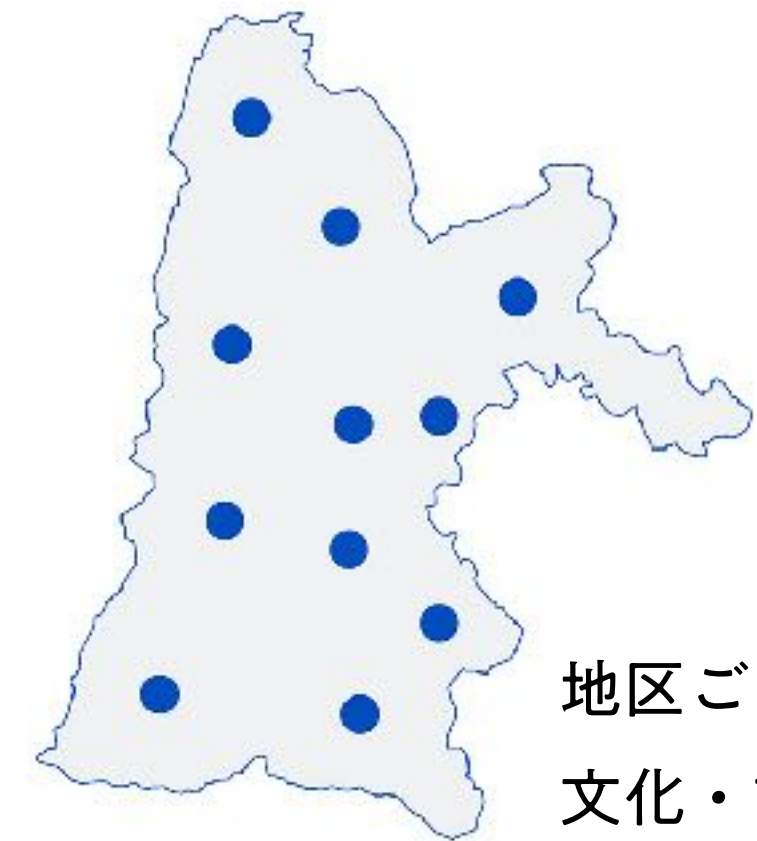


牛の角突き



花火製造

個性的な11の地区



地区ごとに多様な文化・言葉がある

少子高齢化・人口減少が急速に進み、消滅可能性自治体※とされる

※民間の有識者による人口戦略会議で2050年までに若年女性人口が-50%以上減少する見込みの自治体（小千谷は-50.7%）

『令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート ―新たな地域別将来推計人口から分かる自治体の実情と課題』人口戦略会議 / 2024-04-24

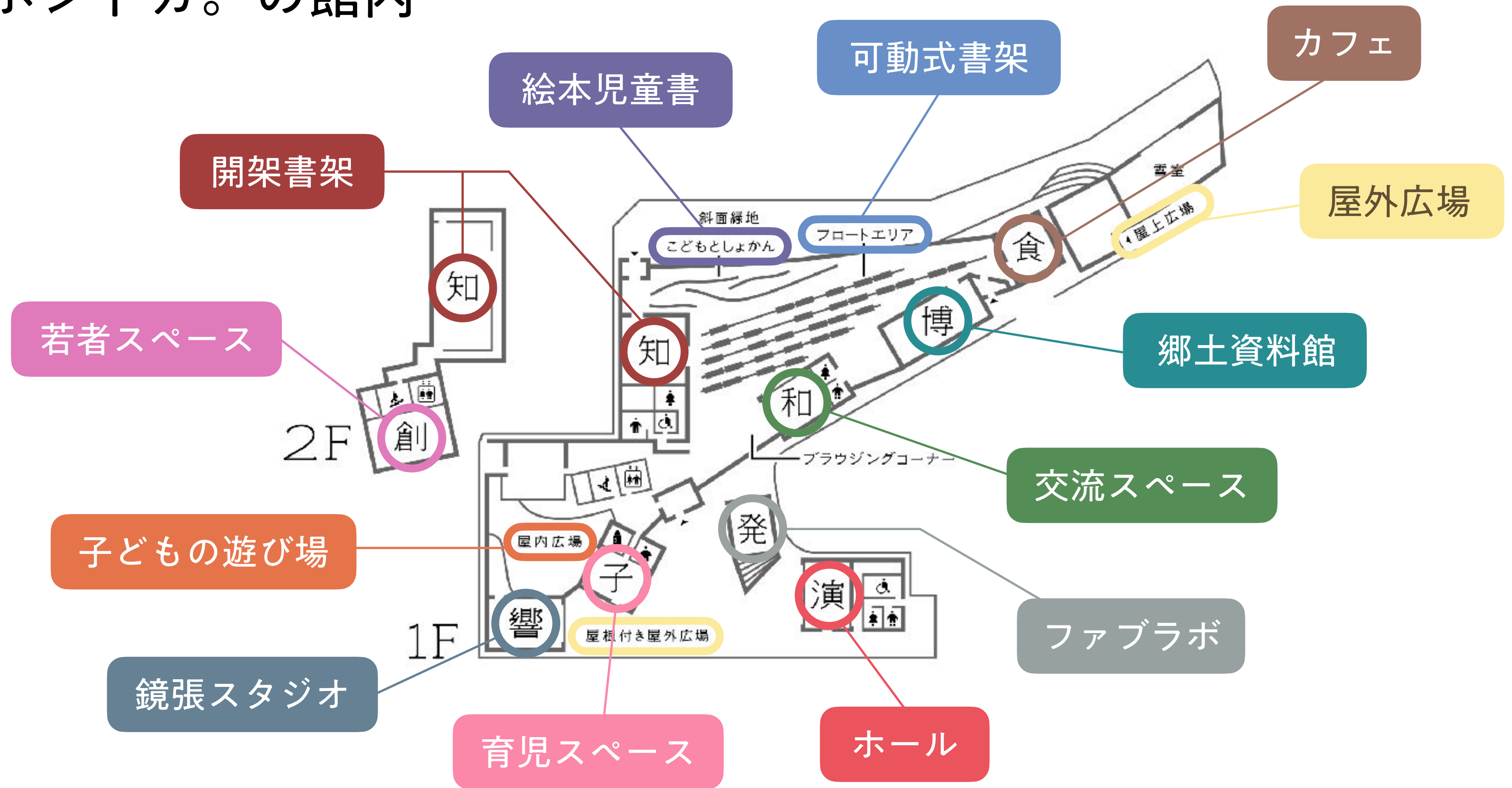
図書館に求められる新しい役割

小千谷総合病院の跡地に建設。
近隣の商店街はまちの中心部だったが、今はシャッターを下ろす店舗が多く、物件の持ち主も高齢化。人通りも少ない。
市民が集まりさまざまな活動ができる拠点となり、地域が再びにぎわうことが期待されている。



画像：Google Map

ホントカ。の館内



図書館の機能が複合化する＝さまざまな使い方をする人が訪れることで
集まる「情報」の媒体・分野が多様化する。

画像：ホントカ。公式Webサイト

期待される活動の循環



「郷土資料」の新しい考え方

施設外



史跡・個人蔵資料・記憶など



地域のひと・もの・こと

施設内



収蔵品 (文化財・紙媒体)

過去



施設内の活動

現在

画像：小千谷市公式ホームページ

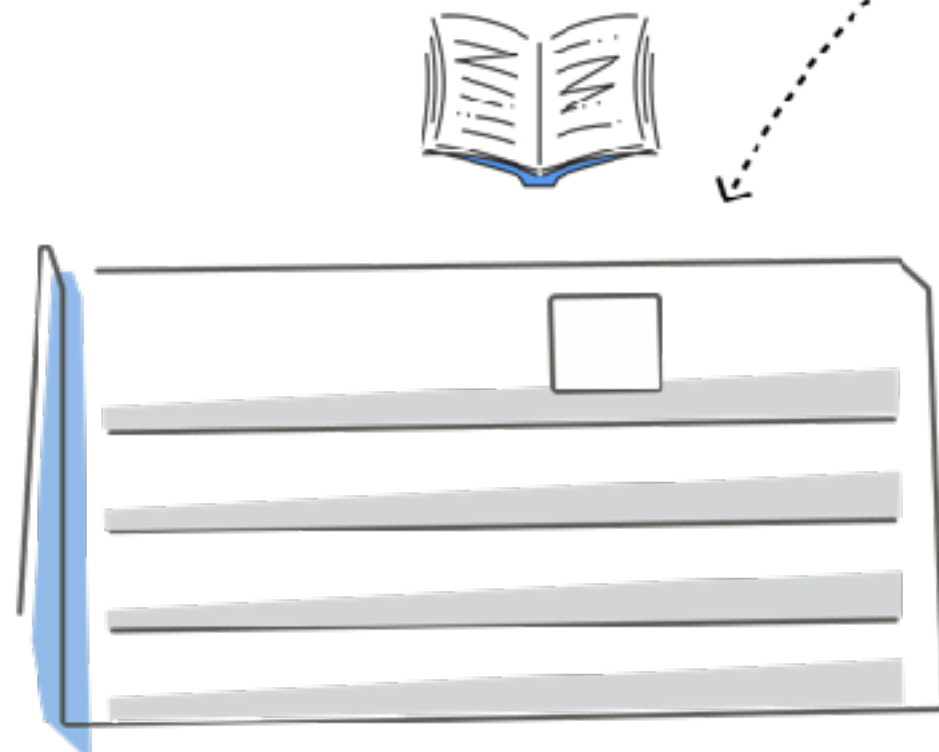
物理的空間と情報空間を接続する情報環境設計

さまざまな媒体・分野の情報を関連づけ
市民の知的関心が広がる場をつくる。

地域情報を市民参加でアーカイブすることにより
施設とまちをつなぐ。



書架から展示への誘導



地域情報の収集



他分野の資料への接続



施設内外の活動への接続

コトノハについて

新規開発した利用者投稿型Webサービス



物理的なコトノハ

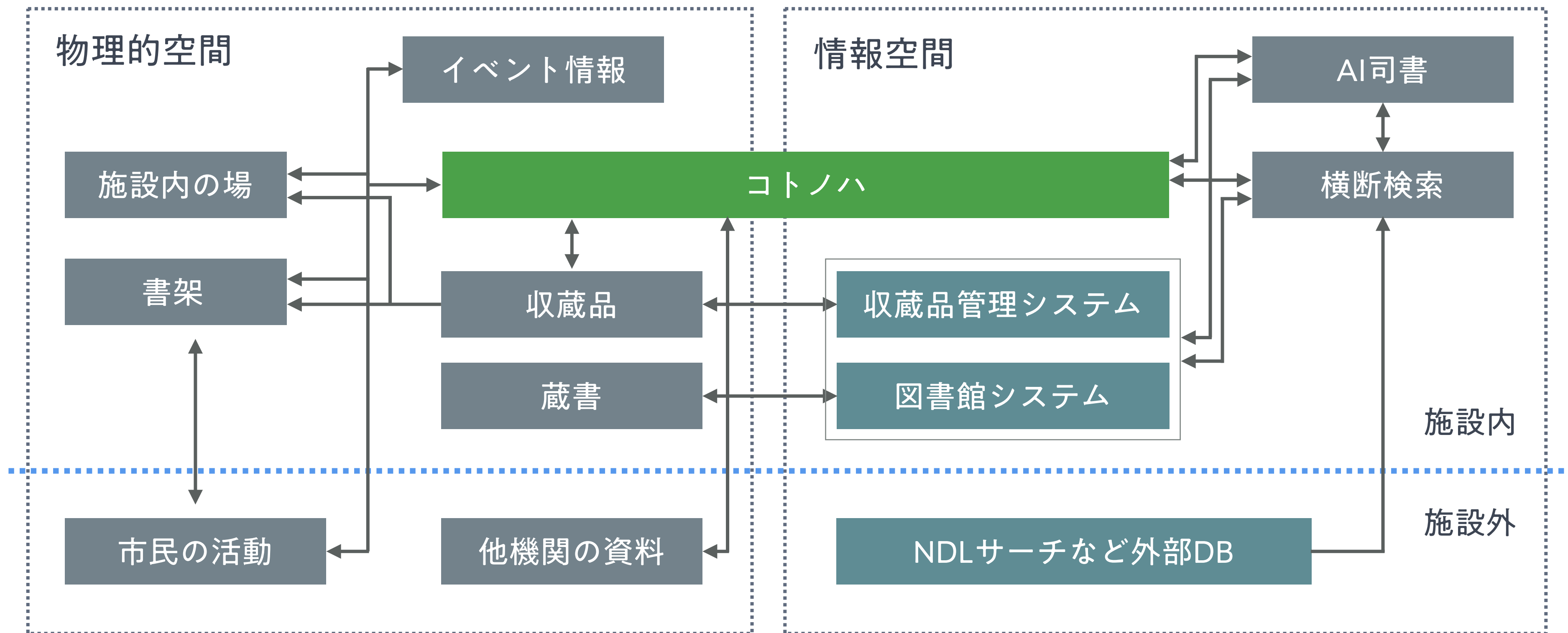
公式サイト上の
利用者投稿コンテンツ



- ・ デジタルの情報に物理的な媒体を与えたもの。
- ・ 手書きメッセージとQRコード付きのカードを介して、物理的な空間からデジタルの情報にアクセスすることができる。
- ・ 施設の利用登録をしたすべての人は、施設の公式サイト上でコンテンツを投稿し、コトノハを館内の好きな場所に置くことができる。
- ・ 編集機能は3種類
ブックリスト作成
記事作成
閲覧者の投稿募集



構成図



コトノハがハブとなり、施設の物理的空間と情報空間の諸要素をつなぐ。

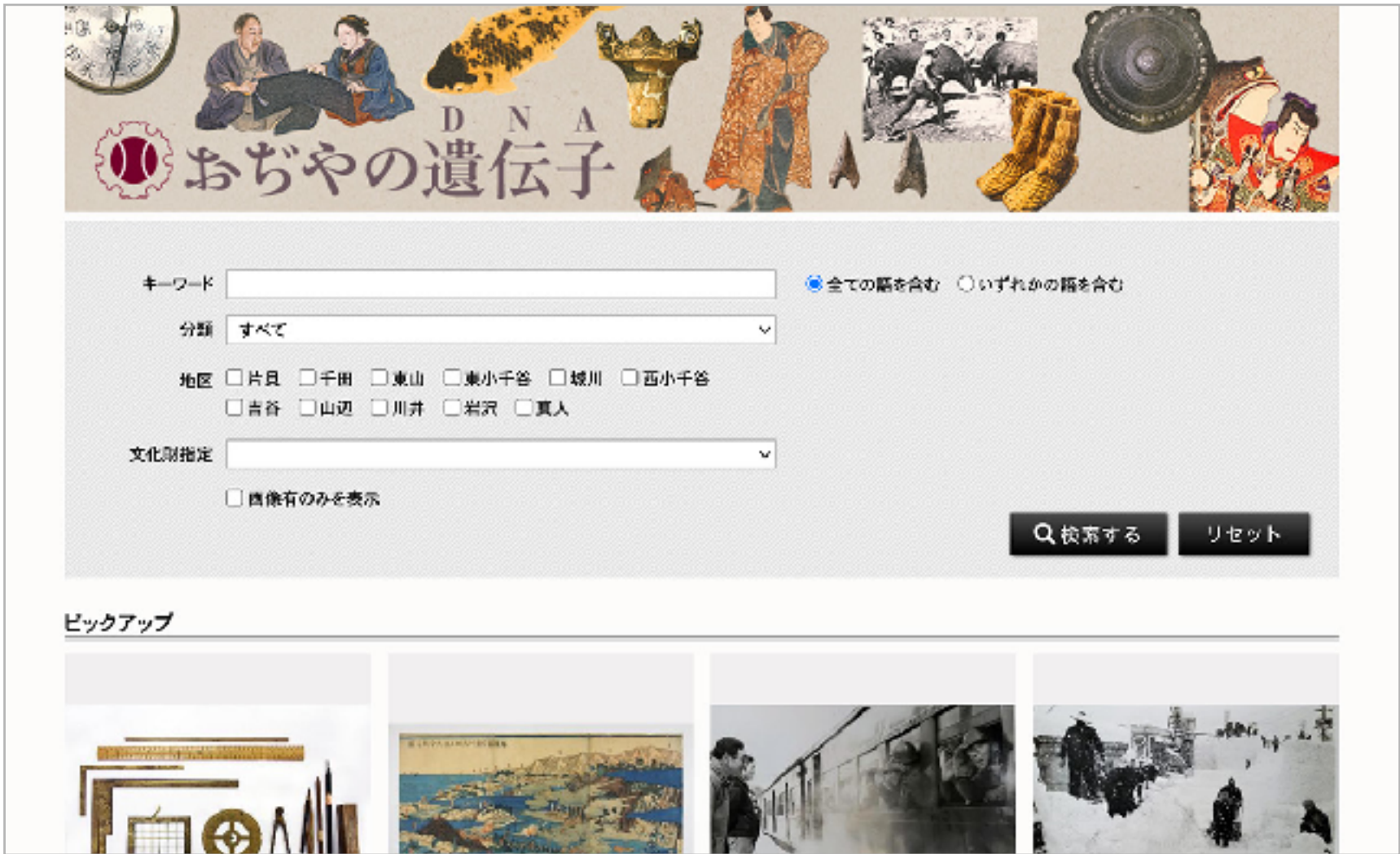
横断検索では図書館システム（Next-L Enju）の書誌情報とデジタルアーカイブの収蔵品情報（I.B.Museum Saas）、公開中のコトノハ、外部DBが検索対象となり、いずれもコトノハ上で表示できる。

小千谷市文化財チームで構築する 2つのデジタルアーカイブ

おぢやWebミュージアム

DNA
おぢやの遺伝子

収蔵品情報の公開



システム	収蔵品管理システム I.B.Museum Saas
収録対象	市の収蔵品 一部データを管理している所蔵外資料
年代	終戦1945年まで

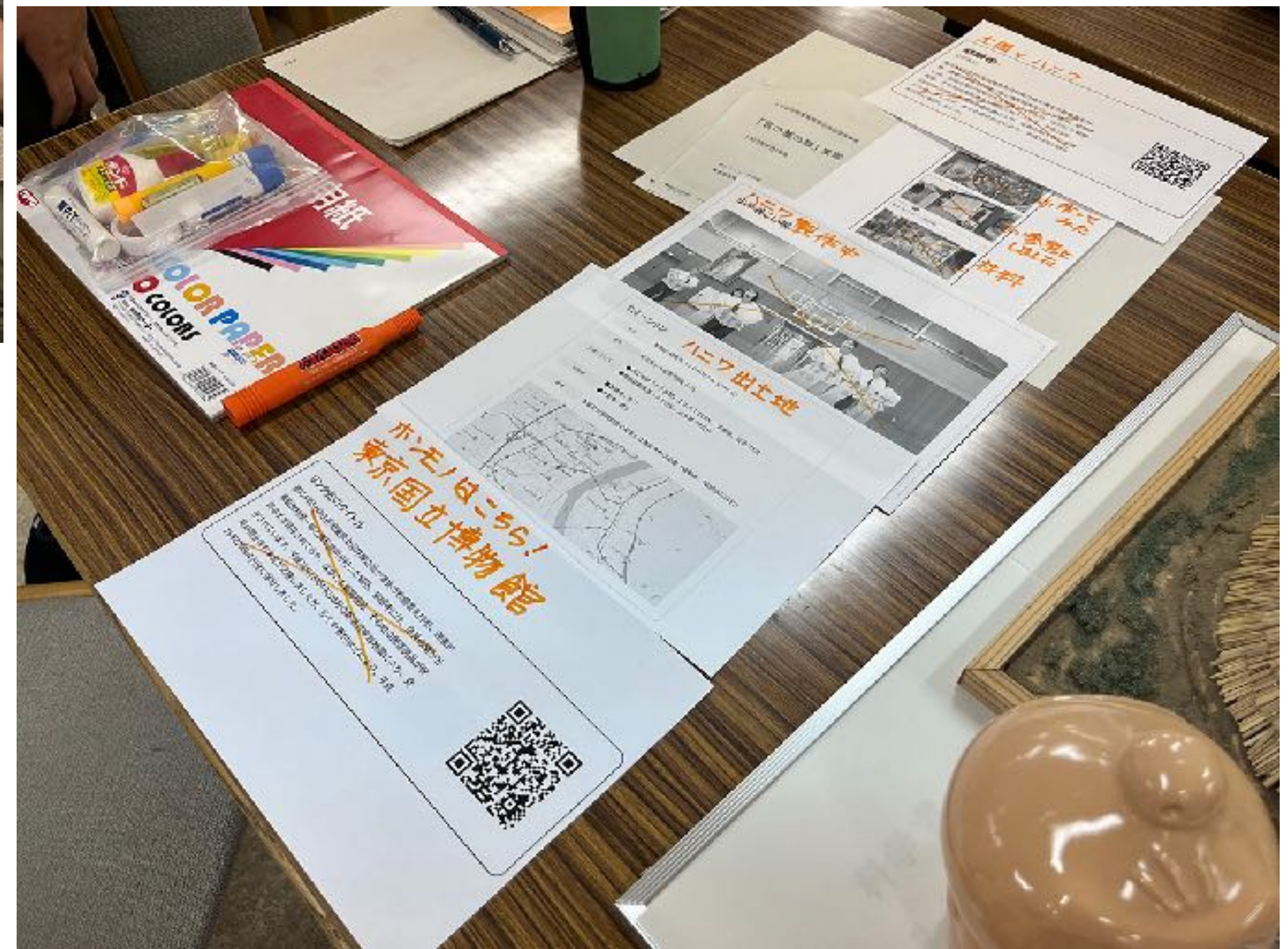
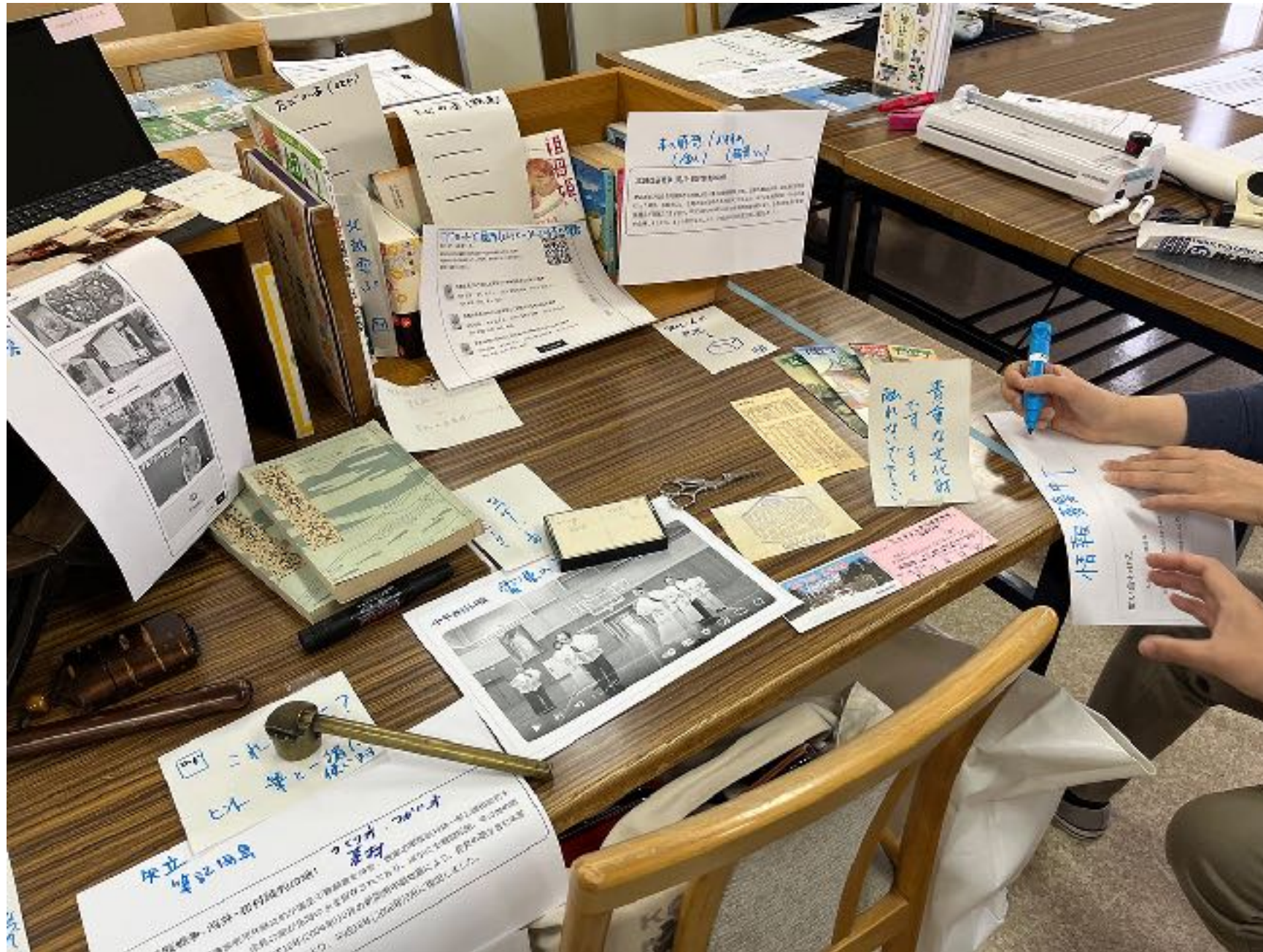
おぢやの千の宝

市民とつくるアーカイブ



システム	新規開発したCMS コトノハ
収録対象	市民と協働し、調査・展示・教育普及 などを通して収集した情報
年代	現代まで

文化財チームでのプロトタイピング (1)



展示台と同サイズの枠内でペーパープロトタイピングを行い、資料とデジタルの情報をどう紐づけるか検討。

UIの検証と物理カードの要件導出を行い、一部実際のプロダクトに反映した。

文化財チームでのプロトタイピング（2）



文化財カード（ノベルティ）



書架での展示の試作



戦争展のパネル
市内の産業振興施設
サンプラザで展示

文化財スタッフにより日常業務のなかで
プロトタイピングが行われた。

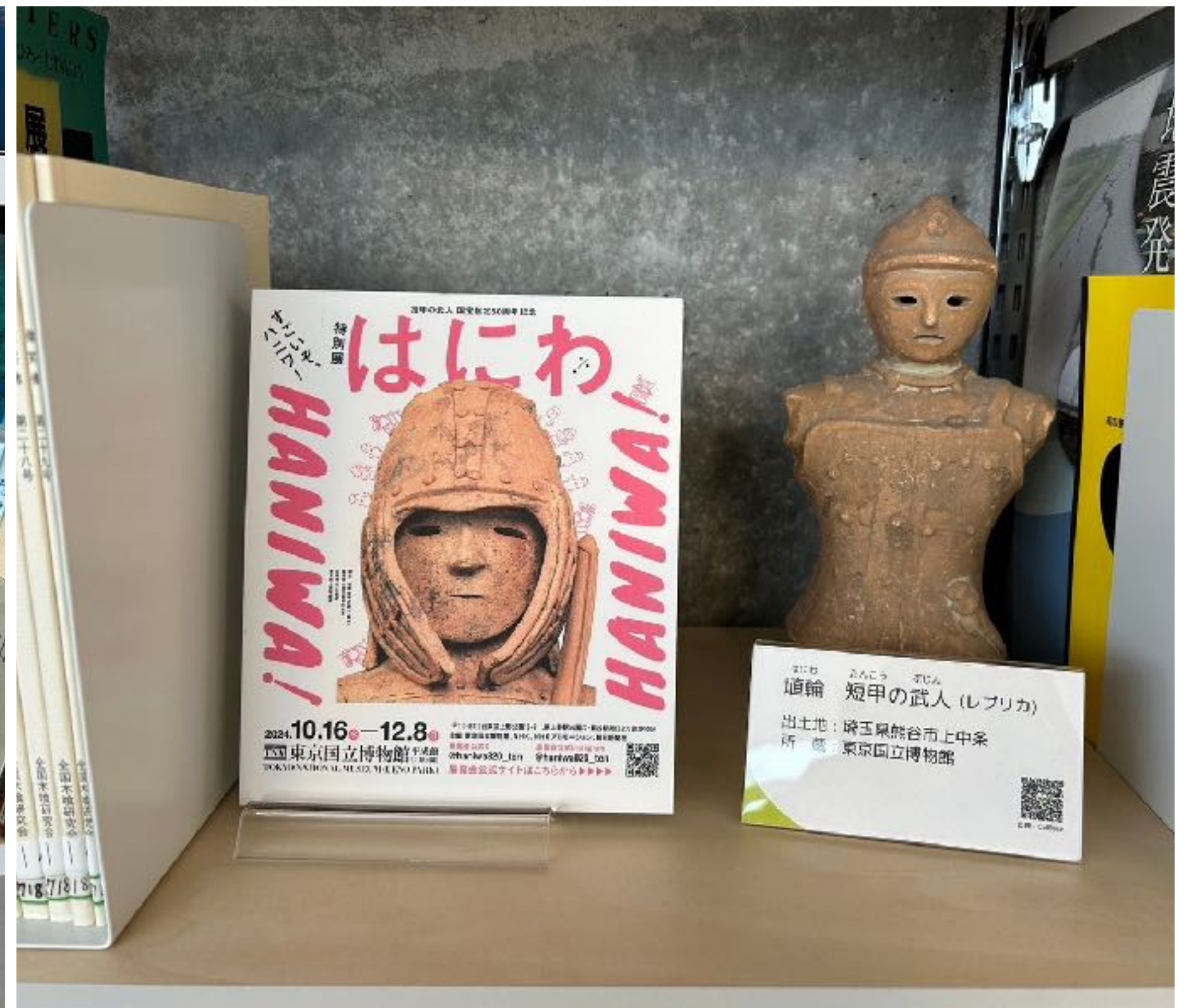
コトノハによる収蔵品情報の活用(1)



オープニング展示「小千谷のDNAと千の宝」での試験的な利用。それぞれの展示台にコトノハのキャプションを設置し、詳細な解説、画像や資料情報をデジタルで提供している。

※現時点では一部機能のみ（収蔵品管理システムとの連携・グループ作成機能などは今後リリース）

コトノハによる収蔵品情報の活用(2) - 他館のデータ活用



書架スペースでの埴輪のレプリカの展示。QRコードのリンク先は国立文化財機構が運用する「ColBase」収録の実物の情報。他館のデジタルアーカイブも活用。

デジタルとリアルをつなぐ展示

動画



地図

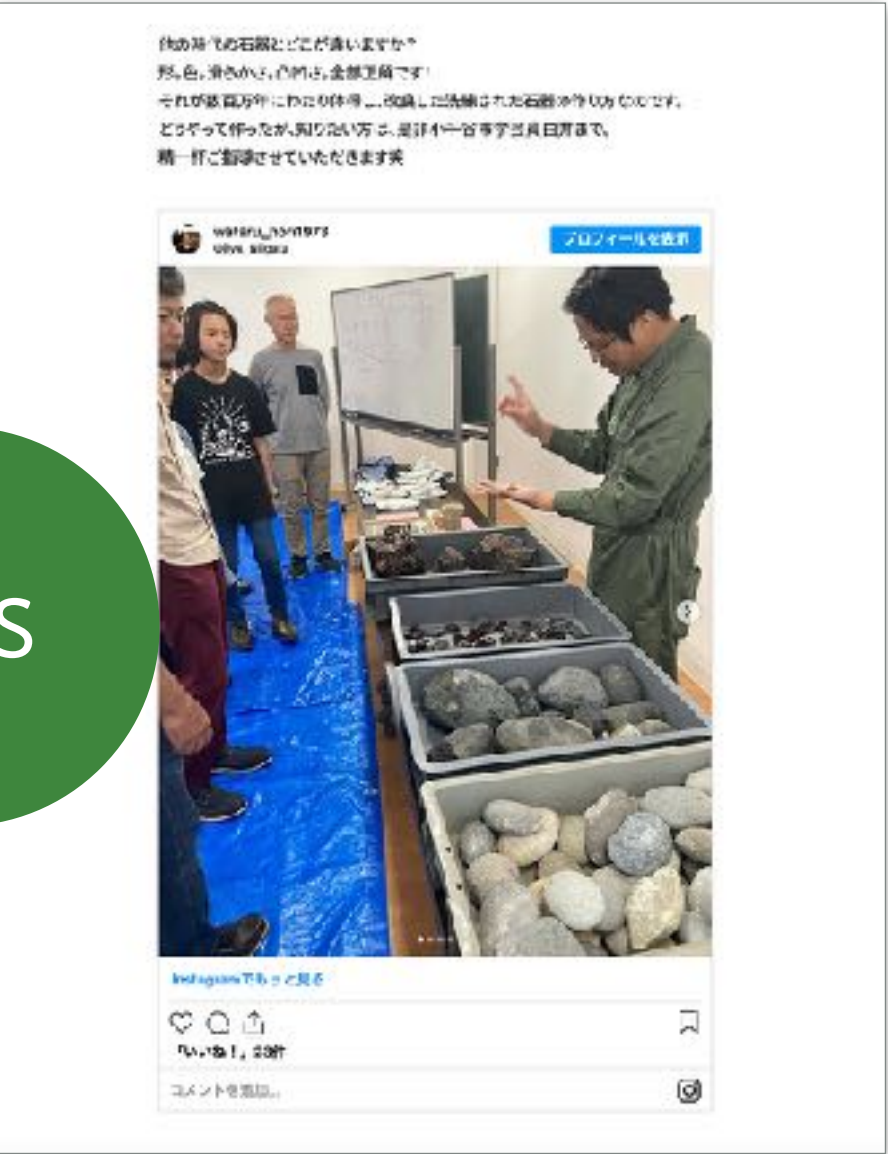


外部
リンク



画像

SNS



さまざまな媒体を組み合わせたWebギャラリーと物理的な資料をかけ合わせたキュレーションを試みている。

コトノハにより可能になること



絵紙

習俗

歴史的背景

関連資料

関連資料



地域特有の分類

浮世絵



伝統習俗

ひいな祭



押絵

一緒に扱われる資料



小千谷縮

地場産業



西脇家

経済・史跡

絵紙
(屏風)



形態のバリエーション

関連情報で文脈を見せる
＝資料を通してまちを知る

画像：小千谷絵紙保存会、小千谷市公式ホームページ

今後の展開

市民とともにアーカイブをつくる

- ・ 市民が主体となって自分たちの手で歴史を掘り起こし、次世代へのバトンをつなぐためにデジタルアーカイブを活用する。
- ・ 市民学芸員（一緒にアーカイブに取り組める仲間）を育成する。
- ・ グループ機能リリース後には市民を巻き込んだ活動を本格的に始動する。
- ・ 「おぢやの千の宝」の個人蔵資料も、長期的には寄贈依頼と「おぢやの遺伝子」への収録を進めたい。
＝歴史資料の廃棄・散逸を防ぐ。



継続的に実施中の市民学芸員講座